



# 公開質問・回答編



T o m y J r .

「公開質問コーナー」の健さんのご質問に回答します。

エレベーターの「開」「閉」ボタンについては様々な方が「分かりにくい」と感じているようです。

健さんは「最近『開』・『閉』の文字ではなく、『<●>』・『>●<』のような表示になっていたりします」と記されていますが、実際にそのような変更の動きはあるようです。

たまたま今日（2007.8.12）の読売新聞にこのことがとり上げられていました（掲載許可は取っていませんが、部数の少ない同人誌ですので出典を明記することで許容される範囲と判断して添付します）。この記事によると読売新聞社にも本件について複数の投書が寄せられたようです。

改善の動きになった要因の一つには「日本国内の国際化への対応」、そしてもう一つは外国人のみならず、お年寄りから子供まで含めた「ユニバーサル・デザイン化への対応」という流れがあるようです。つまり、「開」「閉」では漢字が読めない外国人や幼児には分かりにくいという観点からです。

ただし、「> | <」が閉じる、「< | >」が開く、という絵文字表記についても諸論あります。

私の音楽仲間、ピアニストの唐沢寧さんという方がいてご自身のコラム（ <http://tokyo.cool.ne.jp/karasaworld/291.html> ）の中でこのことに触れておられますが、これを読むと、「> | <」が開く、「< | >」が閉じる、と全く逆に思えてきますから不思議です。



週刊カラサワ第291回

～ 誤解を生むボタン ～

僕の職場は、あるビルの5階にあります。毎朝、5階まではエレベーターで上がるんですが、特に出勤時はエレベーターの中で「1人きりになる」という事はまずありません。出勤時には人が集中するので、後から後から人が乗って来ます。1階で4、5人で乗りこんで5階へ上がります。そして、ドアが開くと、操縦ボタンの側に立っている人が、他人を優先し、ドアが閉まらないようにボタンを押し続けるわけです。

先日、僕が操縦ボタンの側に立っていたので、ボタンを押して、他の人達を優先しようとしたところ、何故かドアがしまってしまった。「あっ！すいません.....大丈夫ですか？」



「ええ、大丈夫です」「いやあ、ほんとスイマセン！....それにしてもおかしいなあ？」  
 手元を見てみた所、自分の押し続けていたボタンはなんと「閉まるボタン」だったのだ！

そういえば、ちょっと前も4階で会議を行った後に、エレベーターで他社の方々を5階へ案内した際にも、「どうぞどうぞ！」って開けたつもりが、「閉まるボタン」を押してしまって、他社のグループの中でも一番偉いと思われる人の肩にドアを「ガツ〜ン！」とぶつけてしまったことがあった！「あっ！すみません.....大丈夫ですか？」「.....」  
 「いやあ、ほんとスイマセン！」「.....」返事がないという.....この状況は非常にマズイです。本当に痛かったんだと思います。その方は、見た感じ50代前半....娘と息子が1人ずつ。娘は短大生、弟は浪人中.....趣味はゴルフ....週末は上司や部下とゴルフを楽しんでいる.....といったところか。この度は、ただでさえ痛み始めている五十肩に、更にエレベーターの一撃を食らい、楽しみにしていた週末のゴルフの結果も惨敗.....。そのような悲惨な結果が容易に想像できてしまう。

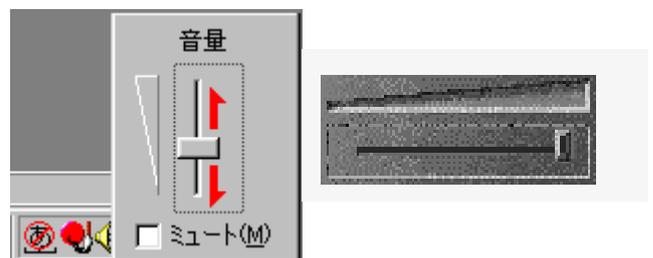
では、何故、エレベーターの開閉ボタンを押し間違えるという、あり得ないエラーが発生するのか？最近になってようやく原因が判明したのでここで解説しておきます。まず、下の写真をご覧ください。



これが現場の開閉ボタンだ！左のボタンを押すとドアは閉り、右を押すと開く仕組みとなっている。それは何処で判断されるのかというと、三角印は矢印のようなメッセージになっており、先が鋭い方がドアの動く方向を示している。これを「矢印もどき」とでも命名しておこう。（矢というのは本来、「柄」と「矢じり」を組み合わせであるもので（例：→）、

上図の三角印には「柄」にそうとうするものが無い）

ところが、例えばPCやオーディオ等、様々な機械やソフトにおいて、下図のようなスライダーが多く存在します。ボリュームの調整つまみやヒーターの温度/風量つまみ等はこのように表現されている場合が多い。



左図では上に向えば音量は大きくなり、右図では右へ向えば音量が大きくなる。エネルギーが高くなればなるほど、三角形の幅は広くなるという表現だ。先程とは正反対で、先が鋭い方向に向えばネガティブに。太い方へ向えばポジティブに作用する仕組みを表している。では、もう一度現場のボタンをご覧ください。

ボリュームスライダー、ヒーターの温度つまみの感覚でこの2つのボタンを眺めると、左のボタンが、ドアの中心から両側にポジティブなエネルギーを放っている様に僕には見えてくるのだ。真ん中から両側にドアが開くエネルギーの流れを感じてしまうのです。つまり「開くボタン」一方、右側は、ドアが動くエネルギーが中心に向っています。つまり、「閉るボタン」ただ、逆にエネルギーが少なくなる方向、つまり、細い方への動きを考え始めると、謎めいてきます。両側に向ってエネルギーが失われていく？内側にエネルギーが失われていく？？というのは良く理解できない．．． なにか変だぞ？と。こうなって初めて、「あっ！これは、矢印もどきとして表現されているボタンだったのか！」という事に気付くわけです。



ところが、同じ職場の方々や他社の人々を優先的に誘導しなければ... という意識が働いている時には、そんな事を考えている余裕は無く、思わず目に飛び込んでくる「中心より外側へエネルギーを放たれているボタン」を押し続けてしまうのだ。黒と白のコントラストも右側よりインパクトが強い！だが、実際は「閉るボタンだった」という訳なのである。

ようやく原因が分かったところで、この三角形だけでの表示では、かなり判断に迷うと感じるのは私だけでしょうか？エレベーターもクロードルルーシュの映画の様に、感じるものなのか？では、どうしたら判断に迷わないのか？「開」とか「閉」というように、文字で書かれていれば間違いないし、または、「三角」ではなく、まっとうな「矢印表示」で表現のほうが確実だ。「開く」は「← | →」で、「閉る」は「→ | ←」だ。ただ、実際はボタンも勝手に変えられる訳でもないのに、ここで訴えた所で解決しない。一番確実なのは、エレベーターガールの様に、開いた瞬間にドアの先端の安全バーを手で押さえ込む... という原始的な方法がよさそうだ。これなら5階に着いて、他人を優先する時も、開閉ボタンを誤解することはないぞ！



このように、ユニバーサル・デザインとはとっても難しいことのようなのですね。

また、ご質問の「国際基準のデザイン」については、私が知る限りでは無いと思います。絵文字に関する国際的な利用方法を紹介した資料を読んだこともあり、有名な例としてあの非常口のデザインに日本案が採用された経緯等も書かれていました。

「案内用図記号」のJIS企画や国際標準化の例等も掲載されていましたが、このエレベーターの開閉ボタンについては何故か出ていませんでした。海外の事例がどうなっているのか興味深いところです。どなたか海外に行かれた際に、エレベーターの開閉ボタンがどうなっているか写真に撮ってきてくれませんかでしょうか？